

SSKW

海から海へ

No.30 2012.3.24【編集人】

特定非営利活動法人 海から海へ

〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5

マートルコート調布 407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp



泰三くんと絢子ちゃん Taizo and Hiroko 727x606 1992 © Mizuki Tanaka

海から海へは、障がいをもつ人から渡される豊富なものの存在に気づき、人々と共有するため、障がいをもつ人を中心とした、文化芸術活動、研究活動、社会教育活動、心理カウンセリングなどの支援活動を行うこと、および、それらの活動を通し、障がいの有無にかかわらず、地域・国内・国外を問わず広く交流を深め、人々がより良く生きること貢献することを目的として活動しています。

みーちゃんの絵画展

田中瑞木美術館 in えじり保育園

会場で書いていただいた感想です。

2012年1月30日～2月12日

企画・主催 社会福祉法人愛泉会えじり保育園

特定非営利活動法人海から海へ

協力: 山口酒店・画荘清野・(株)澤野建築研究所

- ◆第一印象がとてもほのぼのとした個性的な絵で心があたたかくなりました。また、彼女自身が一番描きたいと思う所が絵自体に表れており、皆さんに伝えたい気持ちが良く分かりました。この時間はとても有意義に絵からの表現を感じ、気持ちも落ちつきしました。また機会があれば来たいと思います。清水区押切 岡本務



- ◆素晴らしい数々の絵でした。瑞木さんの、その時々
の気持ちがそのままあらわれていて、私にも伝わ
ってきました。なかでも「私の好きなもの」。緑の
目をしたネコちゃんをきっと大好きなのでしょう
ネ…。「ばら」「花とレモン」「カラーのささやき」
「窓辺のゆり」「チューリップがいいね」が私は好
き。瑞木さんもきっとお花やネコが好きなのネ。
そして…「線香花火」「おひめさま」もいいナ。そ
して…「雨の日のママ」いいネ…。お母様のこと
を思っている瑞木さんの気持ちがズンズン届きま
した。ありがとう！ありがとう！大澤由紀子
- ◆色のきれいに驚きました。絵ののびやかさで力
強いこと！とても刺激を受けました。自分の頭が
いかにカタくなっているか、気づかされたような
気がします。木をたくさん使った明るい室内に瑞
木さんの絵がとてもマッチしていて、すてきな時
間を過ごさせていただくことができました。あり
がとうございました。川島由紀



- ◆いつもの保育園がみーちゃんの絵で鮮やかに華や
かになりました！！絵に力とのびやかさがあり、
どこかほっと笑顔になれる絵たち…。暖かくてす
てきだなんて思いました。「よそのねこ」という絵
の題、なんだかとっても好きです。浅田麻衣
- ◆初めてのえじり保育園に入らせていただいて、中
の感じと田中さんの絵がとても合って、時間を忘
れてしまうくらいゆっくり見せていただきました。
東京の姉（内田純代）から教えてもらって、偶然
来ることになりましたが、温かいものを見せてい
ただきました。ありがとうございます。清水区江
尻東 志村美知子
- ◆とてもきれいな色使いで、観ていて心がホッとし
ました。きっと幸せで豊かな感性で、とても幸せ
な環境の中で、ここまでこられたのだと思いま
した。ありがとうございます。滝沢法子
- ◆画荘清野さんでポスターとふしぎなご縁で、保育
所に導かれ、すばらしいたくさんさんの絵に出会っ
てとてもうれしい気持ちです。調布の近く（多摩市）
に住んでいたのに、今まで知りませんでした。が、
40年後に戻った清水でこんなにすてきな保育所、
絵画の展覧会に出会うなんて思ってもいなかっ
た！今後につながっていくことを祈っています。
ありがとうございます。清水区入江 岩田陽子
- ◆すてきな絵が目の前に飛び込んできました。すご
く暖かい絵（色合い）を感じ、気持ちがほかほか
ぽかとなりました。「生きる力」というものも感じ
ました。園児さんと1つの絵の前で、「この絵きれ
いだねー」「描いてみようか」という会話ははずみ、
たぶんその後彼らは絵を描いたに違いないと思
います。（私は講師のためこの後帰りますが…）子
どもたちにもちゃんと絵の気持ちが伝わっているか
らこそだと思います。ありがとうございます。
静岡市葵区 中田好子
- ◆すなおな表現で、丁寧に描かれている絵に感動し
ました。兼藤恒子



- ◆力強いタッチ、躍動感溢れる色とライン!!えじり保育園の子どもと先生方の生き生きしている生活と共振して、保育園が「今を生きる」ギャラリー空間を醸し出しており、ワクワク感でいっぱいになりました!瑞木さんの観察眼に子どももおとなも触発されます。花も動物も人もキャンパスから出てきて、ダンス!ダンス!ダンス!と語りかけている世界を味わいました。幼いときに「本物」に出会う素晴らしさ!ぜひこれからもアートに出会い交わり響きあう機会を持ってくださいね!!
東京都世田谷区 森真理
- ◆立派な絵でいつまでも見ていてあきませんでした。私の思い出になります。ありがとうございます。
清水区筑紫町 森田みゆき
- ◆色彩豊かなとっても力強さを感じる作品の数々。みーちゃんの絵に出会うことができ、幸せです。その時その時の情景が見る側にも届く感じで伝わり、心が幸せな気持ちに満たされました。齊藤美穂、千春
- ◆はじめて田中瑞木さんの作品を見させていただきました。チラシに載っているうさぎを見て、もっと見たい!!と思い絵画展に来ました。たくさんの作品を見て心が優しい気持ちで包まれたような感じになりました。ありがとうございます。これからもすてきな作品を期待しております。この出会いに感謝いたします。道下亜子

えじりの子どもたちとみーちゃんの絵画展

社会福祉法人愛泉会 えじり保育園園長 井出みや子

30日(月)の朝、いつものように登園したPちゃん。玄関に入るなり「う」と言って一枚の絵に目が。「あ」と言っは次の絵に。真剣に一つ一つを指差し「お」「う」「あ」とおしゃべりをしているのです。そして、みーちゃんの絵がくこっちにもあるよ、みて>と言っているのか、Pちゃんは登園したそのままの足で、階段にある絵とも一枚一枚お話をしていきました。

2日目の朝。一階の一番奥にある一枚の絵の前で、なにやらおしゃべりをしているユニークなRくん。遠くから耳を澄まして聞いていると、どうも呼びかけているようです。「ノンちゃん?」「・・・」「ブルくん?」「・・・」「どっち?」「・・・」Rくんが絵から離れた時、私が「おはようって言ったの?」と声をかけたら、照れながら「ちがうよ」と言い、笑顔で園庭に走っていきました。

1月30日(月)から、田中瑞木さんの絵画展が始まりました。瑞木さんの絵は、大きく色彩豊かで、たくさんの幸せが詰まっています。そんな40点もの絵と13日の間、毎日出会えることはなんと素敵なことでしょう。

この絵画展を開催するにあたり、チラシの制作・運搬・搬入・設置と、多くの方々のお力をお借りしました。えじりの子どもたちと共に、この空間に居られること、心より感謝します。

(「えじりだより」No. 35(2012. 2. 1)から転載)

- ◆素直な感性と表現の豊かさに驚きました。少しは絵をたしなむ私としては恥ずかしさが先に立ちまぶしさえ感じます。上手に描こう、誉められようが先にたってしまう絵を反省した時間となりました。ありがとうございます。直江幸雄
- ◆小さいころの想像力はすごいと思います。僕はあんな色づかいほできないと思うので、見てよかったです。児玉誠弥
- ◆色彩豊かで心温まる気持ちになりました。渡辺昇
- ◆色づかいに、感性豊かに育てられていらっしやることを感じられました。長男も車椅子ですので、可能性をたくさん広めてあげたいです。次男は描いてみたいそうです。児玉さんありがとうございます。遠藤直喜、匡汰、凌汰
- ◆犬さんぽ中によりました。心がホッコリしたね。ワンチャン散歩中の二人

◆毎日素敵な絵が飾ってあって気分が上がりません。私が好きな絵は階段にあるニモ



にでてきた魚の絵。私はその絵をドリーと心の中で呼んでいたりして…。家の壁も白いから、絵を飾りたいなあと思いました。子どもたちの描いた絵をはって、家も毎日展覧会みたいしたいな。主人とそんな話をしたりして。主人一人では見に来れないだろうから、私が見に来たときに電話して見に来させました。私がいくら口で説明してもやっぱり自分の目で見てもらいたいし。井出先生、感動をありがとうございました。望月青波の母

- ◆フレンズ中村和子です。今回は大きな絵画がたくさん展示してありびっくりしました。明るい照明のところまで美術展したのでよかったですね。
- ◆すばらしい作品でした。直な絵で気持ちがわかるような、通じるような気がしました。ひとすじと云うのはすごい観察力が生れると思いました。杉山美代子
- ◆みずきさんの絵は新聞やプリント等で見たことありますが、直に生で見たのは初めてです。細かいタッチも好きですが、みずきさんの大きな目を強調した絵はなかなか存在感が感じられてよかったです。三宅八江子
- ◆とにかくスゴイ！心が洗われ、明日のパワーをもらったよ！アコガレル絵ダ！日常の生活の暮らし方を考えねば。こういう生き方をしたいです。鶴沢敬治
- ◆明るい色彩と大らかさの中に繊細さがあって、すごく素晴らしいと思いました。バラの絵などの花びらのひとつひとつが奥深く、感銘を受けました。線香花火も想像もできないような描き方で、すごい。とにかく大勢の方にみていただきたいと思います。陽子
- ◆色づかいのすばらしさに感動しました。そして伸びやかで自由な感性！どの作品も素敵です。一枚一枚でタッチが違って丁寧に描き込まれていますね。絵を描く楽しさが伝わってきました。橋本
- ◆心が少し“きれいに”なったようです。井出

- ◆下手な絵を描いて10年近く、瑞木さんの絵が私に強い印象を与えてくれ、とても参考になる部分がありました。ありがとうございました。
- ◆瑞木さんのことは今回はじめて知りました。色彩がとても美しく、心が暖かくなりました。「さかな」や「ゆり」の絵が特に気に入りました。クリスマスの絵もダイナミックですね。私は清水に生まれ育ち、このえじり保育園に通いましたが、主人の転勤で娘は東京の桃園小だったのですが、そのときの（低学年）小林時平校長先生が今回の絵画展のことを清水でやるから、とパンフレットを送って下さいました。しかも私の通った保育園で…。なんてステキな縁でしょう。園舎はすっかり変わっていますが久しぶりの保育園、懐かしいです。HPありますよね！！また見たいと思います。清水区草薙 御子柴富士子
- ◆はじめて拝見しました。「カラーのささやき」や馬の絵、「わたしの好きなもの」の表情などがとても素晴らしいと思いました。濁りのない色と大胆な構図が見ていて気持ちよいです。また清水で展覧会をやって下さい。楽しみにしています。森谷緑子
- ◆隙間なく絵の具。丹念に見入る人に迫ってくるなにかを強く感じられる。絵を描く人の思い・こころ…だろうか。画面に溢れる、題材より生み出される画情。広いとはいえない通路、壁面を、準備された方々のご苦心、ご尽力、感謝。更に、ご来園の方々のご好意。重ねて感謝。青木信次
- ◆絵画に対する思いの深さやさしさがひしひしと伝わってきました。この才能を見出したご両親の愛情があったからでしょう。また保育園の施設が素晴らしく、ゆとりのある空間にも見えて嬉しく感じました。四ッ谷恵美子
- ◆鮮やかなピンクがとても印象的でした。そしてどの絵も笑顔にさせてくれる。気持ちが伝わってきました。特に「夜のクリスマス」がステキでした。ありがとうございました。浅田佳久



- ◆きれいな色使いです。細かい所もていねいに描かれていて感心しました。建物



に木を多く使い暖かな感じととてもいいです。明るい中で子ども達のがびのがび育っていく姿が目に浮かびます。岩崎靖子

- ◆楽しみにしていました瑞木さんの絵に会えることを。今とっても心が温かく、潤され、満たされ、うまく言葉にできません。ただ心から“ありがとう”とお伝えします。そして、瑞木さんの持つ与えられたタラント、可能性を発掘され、ここまで支えられた愛子さんお母様に脱帽。同じ母親として大きなチャレンジとエールをいただきました。ありがとうございました。石川節子 P.S. えじり保育園の皆様、この空間を提供して下さったこと、心から感謝申し上げます。
- ◆今日はじめて作者のことを知り、集中力のすばらしさを絵から感じられ、感動しました。どのような人にも一つの特技があり、それを見つけて最大に才能を伸ばしてあげたお母さんの育て方がこのようにすばらしい結果を得たのでしょう。いろいろの面で学ばせていただきありがとうございます。山本みさ子 80歳
- ◆色の使い方に独特のものがあります。一点一点の絵の形と色は皆すばらしいもので、現物を見ないとその素晴らしさは本当には分らないと思い、実際作品をこの目で見られたことは大変によかったと実感しました。また、木を豊富に使用した明るい館内にも感動しました。ここの方々の感じも大変に好もしく思いました。今回の出会いは嬉しい限りです。岩田雅家

- ◆色使いがとても鮮やかで素敵でした。一枚一枚の絵から元気ももらえてとてもいや



されました。これからもたくさんの絵を…。楽しみにしています。

- ◆八ヶ岳で、みーちゃんに出会って2年半余り。その時に来られていたえじり保育園のご夫妻とこういう出会いができ、感激です。あのときは心身共に弱っているときで、みーちゃんの力強い絵からいっぱい力をもらいました。それにしては、この年月、相変わらずの毎日を平凡に過ごしてきたようです。まだまだもう少し頑張ってみようと思っています。東京都町田市原町田 串田弥生
- ◆同じ障害児を持っている親として、瑞木さんの才能を引き出し、開花させることができたお母さんの頑張りにも共感しました。大好きな絵をこれからもずっと描き続けてください。えじり保育園職員 児玉恵
- ◆名画をありがとうございます。大いに感動しました。池田志げ

本絵画展は、多くの方々からさまざまなご尽力をいただき実現いたしました。えじり保育園の井出みや子園長、井出雅士様、また井出様ご家族の皆様には、周到なご準備や開催中のお客様への細やかなご対応をいただきました。社会福祉法人愛泉会からは、本法人に心強いご支援を頂戴しました。

(株)澤野建築研究所の澤野眞一様は、すてきなチラシを作成して下さいました。作品搬入では、理事の山口ひろみ様と山口酒店昌之様は、自家用ランドクルーザーに作品を積み込み、運搬して下さいました。理事の粕谷富久代様は、学芸員と画家の車に同乗し、搬入作業をお手伝い下さいました。作品を会場に配置展示して下さいました画荘清野様は、搬出作業と調布への作品運搬も引き受けて下さいました。電気通信大学学生の黒田君と重松君、澤野様の奥様、粕谷様には、作品の収納と瑞木美術館の展示替え作業にご協力いただきました。他にも、お一人お一人のお名前をここに記すことができないほど多くの皆様からお力添えをいただきました。

田中瑞木とその作品が、えじり保育園の周りのすばらしい皆様や建物と調和し、ご覧いただいた皆様に驚きと感動をもたらし、たくさんのつながりを生み出すことができましたことを心より感謝いたします。

いただいた温かい思いを大切に、今後も活動を展開して行きたいと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。 海から海へ 理事長 阿部公輝

2012年春の旅

『台湾と静岡と...』

先日、台湾旅行をしてきました。以前のお便りで記憶のある方は「弟が画家と約束した旅」と思い起こしていただけるかもしれません。

画家にとって、海外旅行は3回目です。1回目は17歳のイタリア旅行。時差に体がついていけなくて、大変苦勞した思い出があります。2回目は30歳、在仏画家宇野勢津子さんが案内してくださったフランスと母親の私が始めて海外の学会で発表したイギリスへ。3回目が今回の弟夫婦との台湾への家族旅行です。

さて、出発前から、お土産を買いたいという気持ちでいっぱいになる娘は、ガイドブックでチェックしてあったとおり、台湾名産パイナップルケーキを手渡したい方々を思い出し、人数分買いました。

買った日は、台湾の首都 台北に到着した3月9日午後18時頃、場所は着いたばかりの台北 松山空港の発ロビーのお土産物屋さんでした。入国の手続きを終え、着いたばかりの空港の到着ロビーから、わざわざ違う階にある発ロビーに行き、まして一步も外へ出ない前に帰国後に必要となるお土産を買う???

こういうことは、私たちにとっては、特別なことではありません。旅先ではいつものことです。娘の一番の想いを叶えること、つまり、この日私たちは娘の優先順位の一番目を手伝ったのです。

「他にもいろいろ見れば、もっと良いものがあるかもしれない」「今買うとずっと荷物を持つことになる」「考えれば分かること」「大人なんだから」などなど、さまざま考えに占領された私は娘に話して聞かせたことがありました。

しかし、そうやっているうちに、娘の不安感情は高まります。楽しい旅は雲行きが怪しくなり、自分の思いが通じないもどかしさから、もう我慢できないと感情が爆発する状況にまで行くことを、何度も経験してきているのです。以前の私は娘の気持ちや意思に沿った支援をすることができなかったのです。

娘の旅は娘が好きな方々へ、お土産を買うことが一番の目的です。それが済まない内はどんなにすてきなことがおこっても、どんなにおいしい食事をしようとも、彼女は楽しくはないのです。

人は自分の思いを伝えようとするとき、言葉を用いますが、それが難しい場合、他の選択肢で考えたりします。また、想いがあふれる位大きいとき、言葉だけでは足ら



左營の龍虎塔の前で

ないと考えることもあるでしょう。相手の方を思う余り、そのことで頭の中がいっぱいになる経験はどなたにもあるはず。それをずっと持続している娘の姿を見るとき、私ははっとわれに返ります。選択肢がたくさんあるわけではない娘の幸福度を考え、旅に出たとき、その人を思い、お土産を買って、手渡すこと、これを守ってやりたいと。それができる旅も守ってやりたいと。

本人が望むことができるように支援することが周りの人間のやること、そして価値観は多様と頭で分かっているても実践が伴っていなければ何にもならないことを、私は娘から教えてもらいました。

さて、松山空港内には同じ便の方々はどこにもいません。到着してから1時間以上がたっています。空港の外に出ると、自転車の仕事を終えた息子が来るころにばったりでくわしました。「もう、いないかと思って急いできたけど、お母さんたちゆっくりだね。何していたの?」。私たちが説明したことは明白です。弟も納得です。そして、彼は私たちより2時間遅れの便で羽田を出発した妻を迎えに、もちろん到着ロビーの方へ歩いていきました。

旅をしていると、初めて会う方から、娘をご自分の息子さんの結婚相手にと懇願される場合があります。

今回は高雄という町のタクシーの運転手さんが、台北にいる警察官の長男のお嫁さんになって欲しいとのことでした。彼は背が高く、酒もタバコもやらず、まじめなのだそう。聞くところ、台湾では警察官は庶民の3、4倍の月給を取っているそうです。そういう話は娘には耳に入らない様子で、ずっと窓外の景色を見続けていま

す。そういえば、飛行機に乗っている間、窓から空を見えています。フランスへ飛んだときは12時間、そのようにしていました。今回は3時間30分です。

寡黙にしている、ポニーテールの髪型の可愛い顔を見ると、そう思われてもとは内心思いますが、心の中は複雑な気持ちです。結婚はしたくないと言う娘の気持ちを尊重するのが一番と考えています。

帰国した後の新聞記事から、震災後、台湾の国の方々からの寄付が一番多かったと知りました。町の様子も人々の暮らしも、対応もまた、温かみが多い国と感じました。「もう一度行きたいな、台湾へ」と思いましたが、娘は今度「ハワイへ行きたい」とか。世界が広がっていく娘を見ているのが本当に好きです。こうやって、一緒に体験をしながら、家族の思い出を紡いでいることをうれしく思います。

2月には、清水市の個展に合わせ、グループホームの仲間との旅行をしました。直前の風邪で不参加になった仲間がいましたが、総勢11人で、春浅い静岡への旅を体験しました。ドライバーは八ヶ岳、伊豆に行ったときもお世話になったHさんが来てくれました。山口酒店山口昌之さんの一声でトヨタレンタカー料金は値引きしてもらいましたし、宿の方も大幅に値引きになりました。こうして機会を作ることで、地域の方々と関係が深まっていくのも重要な地域生活の要点と思います。

宿ではいつものカラオケを楽しみました。翌日は、農場へ行きました。動物が苦手な仲間が、同行の仲間のお母さんに手を握ってもらい、動物の間近まで進むことができました。ご本人の苦手意識がちょっとしたことで緩和され、うれしそうにしていました。その様子をご両親はじっと見ていました。いつまでも子どもを案じる親の姿でした。

Nさんもやはり、お土産もいっぱい買いました。Nさんのお土産を手にしたうれしそうな表情は周りを明るくします。お土産を手元に置くと旅の空気と思い出がよみがえってきますね。



六合国際観光夜市にて



旗津半島のフェリー乗り場にて

個展のたびに、仲間と世話人さん、スタッフのみなさんから、祝福と応援を受ける旅は、画家にとって貴重な体験の旅になって積み重なって行きます。これまで、グループホームの仲間と一緒にした旅は、箱根、神戸、河口湖、八ヶ岳、佐久、塩原温泉、那珂町、箱根、ディズニーランド、静岡などです。

旅に出るというのは、遠くの施設ではなく、住み慣れた地域で暮らしを続けることを選択し、実践してきたことと関係があります。地域生活はそこに家があり、人手があれば簡単にできそうですが、それだけでは血の通ったものにはならないのです。しょうがいのある人の充実した地域生活は、支援する側が常に本人が望むように手を差し伸べることが重要と考えます。当事者の思いを汲み取れるかどうかは鍵です。

旅に行きたいと願う当事者たちの思いを実現するためには、支援者のサービス提供の中身が測られます。私が失敗をした例でも分かるように、支援する側の都合などが優先されたり、いい加減にしたりすることはあってはならないのです。旅はそれらのことを裸にして、当事者に見てもらふことになります。

旅の持つ効果は計り知れません。「旅をしなければ、老いてからの物語がない」という言葉があります。娘の老いの中に私は存在しないでしょうが、彼女が経験した旅の思い出は彼女の心の中に生き続けていくと思います。豊かな感受性も一緒に育まれていくと思います。旅を受け入れるためには、柔らかな感受性が必要なのかもしれません。もしかしたら、いつまでもそれが失われないでいられるかどうか、支援者が試されているのでしょうか。

旅は物語でもあり、学びでもありますね。

(阿部愛子)

田中瑞木美術館より

学芸員 阿部愛子

「春・やぎたちの午後・とりたちの午後・よそのとり・よそのねこ・静物・マーマレードになるよ・ねこの原っぱ・おひめさま・おひなさま・画室のわたし・窓辺のゆり・花とコップ・花と人形・ばら・さくら」現在展示中の作品です。

美術館は春になりました。どうぞ、お出かけください。

「さくら」

毎年さくらのころには、日本中が大騒ぎ。

さくらは仲間と一緒にいっせいにひらいておしまい。

また来年会いましょうと、人々はさくらにさようならをします。

瑞木のさくらは、たった3輪。大きなさくらです。

しっかりとひらいたままで、いつまでも生きているよと、話しかけます。

さくらのはかなさよりも、さくらの力強さが印象的です。さくらって、さくらって、……。ふしぎですね。



「おひなさま」

小学生、中学生のころ、完成した絵を絵画教室から家まで、自転車です。

知り合いの人がその光景を目撃したそうです。

「度肝を抜かれたわよ」とお母さんに語りました。なんとも言えないユーモラスなお内裏様とお雛様が並んでいます。

地球上のどこを探しても、このお顔の人形を見つけることはできないでしょう。

くるみ割り人形も、夜には変身します。

「人形だって笑うよね」と瑞木が語ります。

瑞木だからこそ描ける人形の別の顔。

お澄ましのお雛様はどこかへ行ってしまいました。



編集後記

千葉県四街道市のNPO法人「ふきのとう」代表の森明子さんにご縁があり、地域の小学校の空き教室を利用して毎月曜午後開かれる「コミュニティカフェ樺」を見学しました。これは、地域の人々が集まって、手作りランチをいただきながら、おしゃべりをしたり、ゲームを楽しんだりする活動です。

エプロン姿でご案内して下さった男性Fさんは、ボランティア活動をしている息子さんの影響で、昨年5月から参加しているとのこと。かつて教室だった和室に大勢の方々が集まって来られました。一人では外出できない人は、樺のスタッフから車で送迎してもらえます。この日は、野菜たっぷりのカレーと焼きうどんなどのメニューでした。Yさん、Tさん、Sさんは、ともに大正生まれの女性たち。Yさんは、「品川で生れてね」とか、東京大空襲の2日後、疎開先から戻って見た町の様子など、私にお話しされます。Tさんは、実家の新潟県浦佐のこと、魚野川の水のきれいなこと、そこで獲れる鮎のお話しをされました。皆さん、娘さんや息子さんご家族と同居されたり、ご家族のすぐ近くにお住まいとのこと。「友だちと話せるのはいいね。月曜日は楽しみだね」とおっしゃいます。部屋の一角では、将棋に興ずる男性たちやそれに見入る人たちなど。隣のダイニングキッチンでは、楽しそうにおしゃべりをしながら百人一首やトランプの七並べなどをする方々もいらっしゃいました。

ふきのとうの活動は、「たすけあい」を理念に、支援のできる人が、支援の必要な人を助ける、お金は支援の対価ではなく、しるしのようなものという考え方の市民活動から始まったとのこと。現在は、訪問介護やデイサービスの事業を着実に進めながら、一方で、制度の枠に縛られず、人々をつなぐ活動を続けています。今後、その活動の触媒として、画家とその作品が寄与できることがあれば嬉しく思います。(輝)

特定非営利活動法人 海から海へ

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp

2012年3月24日 海から海へ No.30

編集責任者 阿部公輝

〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5

マートルコート調布 407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21

特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価 200 円

無断転載禁止

平成24年度通常総会開催のお知らせ

日時 2012年5月20日(日) 午前11時～12時

場所 調布市布田 1-32-5 マートルコート調布 407